

周辺のみどころ

兵主大社と野洲川を挟んだ守山市田中の大日堂にある妙蓮池に咲く蓮。つぼみの時は常蓮(通常の蓮)と同じだが、開花すると、中から二つ以上の花が顔を出す。中には10個以上の花が付くこともあるという。おしべが無く、花弁だけが2,000枚から5,000枚も集まった不思議な蓮花である。縄文の大賀蓮で名高い大賀一郎博士はこの花の美しさを愛で「近江妙蓮」と名付けた。



不思議の蓮花 近江妙蓮



[アクセス]

- JR 琵琶湖線野洲駅からバスで兵主大社下車

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]
(関連文献/関連施設)

- 『名勝 兵主神社庭園保存整備報告書』 宗教法人兵主神社・中主町教育委員会

兵主神社庭園

野洲市五条

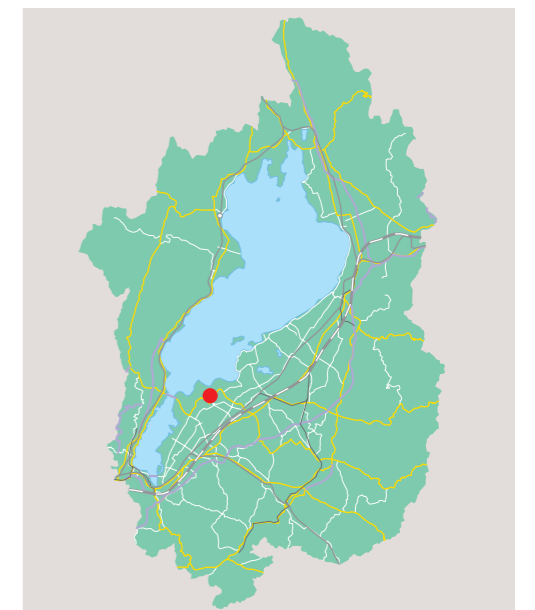


兵主神社庭園

兵主大社は、武運を祈願する神社として、源頼朝を始めとする武将達の厚い信仰を集めてきた。しかし、その起源をたどると琵琶湖と深い関係のある神社であることが判る。

神社境内には、大規模な池泉回遊式庭園が伝わるが、この庭園を発掘調査したところ、予期せぬことに、下層から平安時代後期の庭園が現れた。

流れと池で構成されたこの庭園は、兵主大社の起源に関わり深い、琵琶湖を強く意識した造形だった。





兵主大社本殿と庭園

兵主神社庭園

所在地 野洲市五条

兵主大社の祭祀

兵主大社の祭神は八千矛神やちほこのかみ(=大国主神)である。元々兵主神とは、中国の史書に見える「軍の神」であるが、同時に「水の神」・「農耕神」との見方もある。また、その名称からか、古来、源頼朝を始めとする武家の篤い信仰を集めてきた。

兵主大社には、様々な起源が伝えられている。ある起源では、景行天皇の時代に奈良の穴師に祀られていたものが、天皇が近江国高穴師穂宮に遷都するに当たり、穴太(現大津市)に遷座した。時を経て欽明天皇の時代、琵琶湖を渡り、現在の社地に再び遷座したと。別の起源では、養老2年(718)に兵主神は大亀の甲に白蛇として乗り、琵琶湖を渡って来た。この時、鹿の群れが兵主神を守護し一緒に湖を渡ったと。

何れにしても、兵主神は対岸の地から琵琶湖を渡ってきた神であることが、これらの縁起に共通している。この事を物語るように兵主大社には、「八ヶ崎神事」と呼ばれる神事

が伝えられている。これは、晩秋の頃に、兵主神が示現したと伝えられている野洲市菖蒲の湖岸で奉祀されるもので、宮司が大社の御神体と共に湖中に入り、琵琶湖の水で御神体を浄める、或いは、御神体に琵琶湖の力を迎える神事である。

兵主大社庭園

本殿の南にある庭園は鎌倉時代の古様を伝える庭園として、昭和28年に名勝に指定された。庭は対岸の比良山地に産する守山石と呼ばれる庭石をふんだんに使った大規模な地泉回遊式庭園である。

平成4年、台風等により随所に傷みが生じた庭園を修理するため、発掘調査が行われた。その結果、下層から現在の庭園の池とほぼ同じ形状で、洲浜で縁取られた平安時代後期の池が現れた。さらに発掘調査を進めると、この池に水を注ぐ160mにも及ぶ遣り水の跡が、さらには、琵琶湖に向かって出入りするための船着きの跡までもが見つかった。起源と伝



中島の小祠



兵主大社楼門



発掘された下層庭園の洲浜



八ヶ崎神事

えられる鎌倉時代よりも古い庭園が蘇ったのである。

兵主大社と庭園

下層から現れた庭園の特徴は、長大な流れと、洲浜に縁取られた池である。まだ、庭園の全体が発掘されたわけではないので、想像の域を出ないが、流れは、長方形に閉じてい

た可能性が指摘されている。すなわち、水で囲まれた聖なる場所があり、ここに古くは兵主神が祀られていたかもしれない。また、通常、洲浜の造形は海岸の情景を表す。しかし、兵主神が琵琶湖に示現したという起源を想えば、この洲浜は海ではなく湖、すなわち、琵琶湖を表現したものと考えることが自然である。